

## ボルール持続可能な住民組織/BOSDA の現況

元 HANDS 奨学生が設立した住民組織 BOSDA の竹串共同出荷と 2014 年度事業アグロフォレストリー (WE21 ジャパンみどり支援) の現況をお伝えします。

すでにご報告のように、運営面の対立から 2 グループに分かれたため、今年度は事業見守り期間として、それぞれのリーダー、元 BOSDA 代表ダンディーと農業技術者ボニファシオの 2 人から、年 4 回のモニター報告を受けています。以下、9 月の報告です。

**ダンディー**：女性の副業、竹串作りは需要減と価格下落により、作業を休んでいるものが多い。代替収入源として、炭焼きを始めたいが、市の環境課による一切の樹木伐採禁止指導により難しい。メンバーはゴム苗木に期待していて、手入れを続けている。

**ボニファシオ**：9 月中旬に見回ったところでは、残念ながら枯れた苗木もあった。ローレンシオとネスターの苗木はよく手入れされていて、他のメンバーの手本になると感謝している。自分は家族のために外部に仕事を求めたため、週末しかボルールに戻れないが仲間の助けは心強い。資金ができれば次はココヤシ 100 本等、ボルールの森林農業発展に取り組みたい。

## タシマン村シエテの事業は 9 月末完了

前号で進捗状況を報告をさせていただいたシエテ地区 30ha では、各種苗木計 8,000 本の移植が終わりました。現在その評価と報告の作業にとりかかったところですが、PFP 会計ヴィヴィアンさんから、夫の緊急入院で一部資料が遅れるという連絡がありました。

今月から、タシマン村 2 年目の事業がドワルド地区で始まり、11 月中旬には、ここを訪問予定で、隣接のシエテ地区のゴム苗木等の成長も確認してきます。

(三井物産環境基金助成)

### 農業専門家ニックさんの報告

7 月のゴム苗木の  
トラック搬入の様子



ゴム苗木は、通常、北コタバト州マキララまたはダバオの種苗店から購入する。30cm の苗木 2,000 本の輸送にはトラック 2 台が必要で、約 3 万円かかる。苗がもっと小さければ苗代、輸送費を低く抑えられるが、7 年後に確実によい樹液を採るため、このサイズを購入した。

## マアン村スフ地区の高原野菜とコーヒー栽培



3 年前助成を受けて実施した高原野菜とゴム、コーヒー、在来種苗木を組み合わせたアグロフォレストリー事業は、すでに野菜栽培については失敗したと報告しましたが、前号で紹介のマーク神父が CMIP ディレクターに就任し、今年は野菜作りも復活しました。(写真)

コーヒーについてはすでに収穫が始まり、前回訪問時には、5 パックほどお土産にいただきました。万人向けの癖のない味で、日本でも売れるかもしれませんが、CMIP も地元市場開拓に努めていますから、私たちとしては、当面、イベント販売等の方策検討はせずに、CMIP の販売戦略に任せようと思います。

## ラムダラグ村 3 年目の事業開始



7 月からタウォル、ボロウの 2 地区で始まった「ダグマ山系ラムダラグ村の生態系保全のための森林農業推進」3 年目事業について、PFP 農業専門家サムソンさんから写真報告が届きました。

6 月出張の際、私たちも訪ねたタウォルのシチオリーダーの家での詳細打ち合わせ (写真上) に始まり、受益者選抜、対象者の説明も終了、コーヒー苗についてはすでに配布を終わり移植作業が始まりました。

ゴム苗に関しては、既に 10 万本前払いしました。苗木確保のためです。いつも苗不足で、これまでの事業ではゴムの入手、移植は事業終盤になってしまっていたのを防ぐためです。

インドや中国での車及びタイヤ市場拡大期待から、世界的に天然ゴムの需要も増えているようです。1 年後のブラクールを皮切りに、私たちの支援地域で次々にゴム樹液採取が始まります。この天然ゴム需要増が長続きして、安定的な現金収入に結びつくことを願っています。